

田原たはら〔宇治橋より午未の方二里にあり。此所綴喜郡なりといへども、いにしへより宇治田原と称す。田原は郷名にして中に数村あり、郷口、荒木、岩本、禅定寺、熱田、平岡、大道寺、糠塚、南、切林、老中、名村、府作等なり。此地四面山にして、巽の方に鷲峯山あり、北西より至るを郷口といふ。此所田原郷中都会の地にして商人多し、又茶店などあり〕

大御堂おほみだう〔荒木村民家の北にあり。萱葺の堂にして、額は普門閣と書して、禅定寺月舟和尚の筆なり。本尊は十一面観音、立像五尺許。此堂の形東西に亘つて広し、土人大御堂と号す。又傍に一小寺あり、三瀧寺と号す。此寺主大御堂を守る。いにしへは堂舎巍々たる歟、今なほ土中より古代の瓦石出るとぞ〕

八幡宮はちまんぐう〔田原皇子の御廟の上にあり、小社なり。祭神、石清水〕

三宮さんのみや〔平岡村民居の西南林の中にあり。祭神詳ならず。土人生土神とす、例祭は九月一日、神輿一基あり〕

亀井山真言院

〔岩本村民居の西南戌亥の山上にあり。真言宗にして、本尊薬師仏は運慶の作、立像三尺許〕

亀井

〔同所乾のかたはらにあり。相伝、弘法大師の設給ひし所なり〕

鎮守

〔同所にあり。祭神四所なり、祇園、稲荷、八幡、天神。当院の開基は弘法大師なり。什宝に大師所持し給ふ錫

杖あり。近世再建の時中院通村卿より賜り給ふ和歌の懐昏あり〕

題 古寺再昌の祝

千代の秋をこめてたつらん山深き霧間にみゆるむねのいらかは

普陀山禅定寺

〔田原郷中禅定寺にあり。禅宗曹洞派なり。境地は山上にして南に向ふ、後に峰あり。仏殿の額は

円通閣と書して月舟の筆なり。本尊十一面観音は定朝と作にして、立像長八尺。脇士は文珠、普賢、長は二尺二三寸許にして同作共に厨子に安ず。四天王像長四尺許にして同作なり。希代の靈尊にして応驗いちじるし〕

地藏堂 〔仏殿のひがしにあり。延命地藏尊を安ず。作同前にして坐像五尺ばかり。此堂初めある所は西の方二町ばかりなり、今地藏溪あるひは水溪とも号す〕

〔当寺いにしへは大廈にして、大門の跡今なほ大門田と号して、南の方一町余にあり。四条宮ならびに知足院殿下大檀

越として御帰依あり。開基は平宗上人、南都東大寺よりいで、宗旨は華嚴に真言を兼たり。中興は曹洞月舟和尚にし

て、今のごとく再建し給ふなり」

巖平山龍安寺

〔同郷名村なむらの民家北の方にあり。禪宗曹洞派にして、本尊は千手観音、立像七寸許。開基は道元だうげん和尚。

当時年久敷荒廢におよぶ、近世再建す。旧地は此所の巽の山上四町ばかりにして、奇岩あり、俗にこれを大岩原と号す。又山上に経塚と号する所あり、いにしへ道元だうげん和尚経王を取めらるゝ所なり〕

寂光山善福寺

〔同所民家の南の方にあり。浄土宗にして、本尊は薬師仏、坐像三尺五寸、厨子に安置す。十二神

将外壇に安ず、共に作詳ならず。相好いと殊勝にして絶妙なり。はじめは光明山寺くわうみやうせんじの本尊なりといふ〕

煮栗焼栗林

〔同郷名村なの南にあり。由縁は前編に見へたればこゝに略しぬ。今に煮たるが如く焼たる如く栗生な

り、山城七不思議の其一なり〕